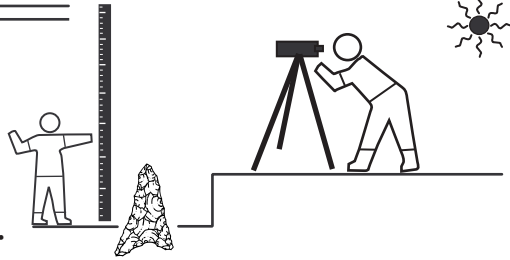


いわかげ

— No. 107 — 2005, 9, 3

広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



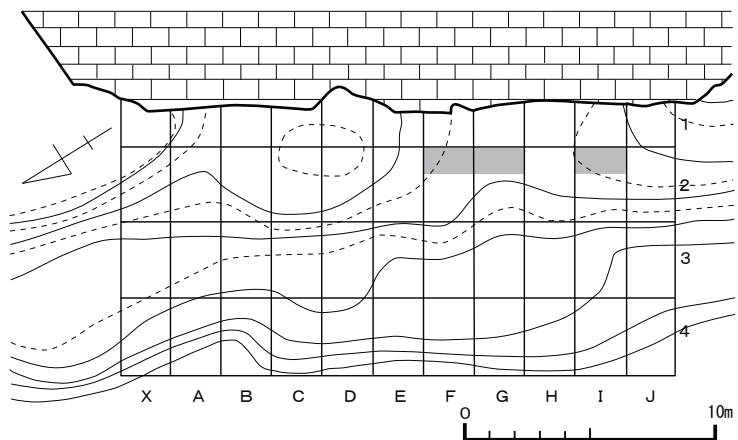
2005年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 Ⅲ期（8月27日～9月3日）

久代東山岩陰遺跡（くしろひがしやまいわかげいせき）

今年度の調査目標は、まだ調査されていなかったF・G・I区の調査を部分的に行い、東壁の層序から、遺跡全体の南北に一貫した土層の堆積の様子などを確認することです。調査されていなかった調査区を調べることで遺跡の全体像や性格、つまり遺跡での居住の様子を把握した後、どのようにして土砂が堆積・流入したのかなどを確認しました。

Ⅲ期は、Ⅱ期に引き続きF-2区とI-2区の発掘調査を行いました。F-2区の特筆すべきものはⅡ期にG、F区にまたがって発見された弥生時代の遺構です。この遺構はⅡ期の段階では3層上面から掘り込んだ土坑（どころ：地面に掘りこんだ穴）と考えて調査を進めました。そこで、Ⅲ期の調査では、この遺構がどこまでのびているのか調査をしたところ、F区の北壁に遺構の形が検出でき、E区にも広がっていたことが判明しました。性格こそ不明なものの、土坑というよりは細長い溝状の遺構であることがわかりました。

また、I-2区ではJ区側からの崖錐堆積（岩陰上部や側面からの土砂の流入堆積のこと）の状況を調査し、岩陰南側の遺跡の利用状況を確認しました。崖錐堆積はJ区側からI-2区の南半まで流れ込



久代東山岩陰遺跡調査区配置図
（網掛け部がⅢ期の調査予定範囲）

んでおり、日常的な居住範囲の南限がI区の半分位にあるということが確認されました。また、J区側からの崖錐堆積は大きく2回に分けられ、1回目は縄文時代前期後半頃、2回目は前期から後期の間におきていたことが判明しました。これで、I-2区の調査目的は達成できました。

今期で今年度の調査目標であった、南北に一貫した遺跡全体の調査は終了しました。発掘調査こそ終わったものの太古の人たちの歴史と先輩から私たちへと受け継がれた歴史を併せ持つ久代東山岩陰遺跡、興味のある方はぜひ見学にいらしてください。

(新秀文・伊藤祐介・津田真琴)

コラム1 ある調査員の成長日記

二年生の作業は、まずレベル（測量器具）の設置から始まります。私はこれが最大の苦手です。私がレベルの設置に悪戦苦闘していると、横から冷たい視線を感じました。そこには呆れ顔の先生が立ってらっしゃいました。先生はおっしゃいました。「道具実習で習ったんじゃないの〜?」。私は赤面しながらも、先生に厳しくも愛のこもった指導を受けながらやつのことでレベルを設置することができました。次に発掘作業に取り掛かります。発掘といってもただ掘るだけではなく、土器などの遺物や層の変化に気を配りながら掘り下げていかななくてはならないのです。しかし、石と土器の違いがまだはっきり区別できない私は土器に気づかずに掘り進めたり、土器を割ってしまうというミスを何度も繰り返してしまいました。そんなときに先輩方にアドバイスをいただき、私は本では決して学べないことを学ぶことができました。おかげでそれからは、『レベルの設置はてきぱきと、土器の区別ははっきりと』できるようになり、明らかな成長を感じるようになりました。これで満足することなく、さらに成長するためにより一層の努力を続けていこうと思います。

(河戸祥陽 田中慎一 辻村哲農)

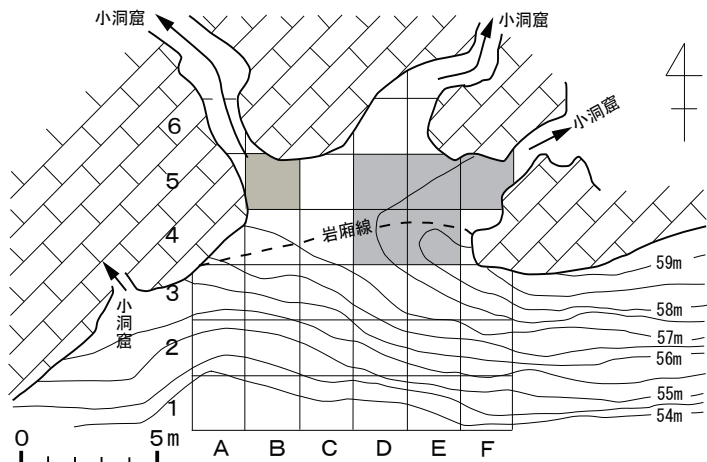
帝釈大風呂洞窟遺跡（たいしゃくおおぶろどうくついでせき）

今年度の調査では、第3層（縄文後期・前期）を目指して調査を行っており、今期は第2層の古代・中世の層を掘り進めています。第2層は厚さ15～40cmの黒褐色土層で、南側ほど厚くなっており、須恵器や土師質の土鍋片などが出土しています。今期では、E5区西半で検出された、焚き火をした跡と思われる焼土の調査を中心に作業を行っています。この焼土は、E5区西半全体に広がっており、焼土の南側付近からは土器の破片が大量に集中して出土しました。しかし焼土と土器片では、その出

土する層の位置が異なることから、時代が異なると考えられますが、関係性はまだよく分かっていません。また焼土を掘ってみると、東側では深さ2cmほどあるのに対して、西側では面とっていいくらいの薄さしかありませんでした。この焼土については何のために火を焚いたのか、まだまだ検討する必要があります。他にも、生活空間の把握のため、D・E・F区全体を中世の面でそろえて、その様子を写真で撮影したりしました。今後は、先ほどの焼土を掘り上げるなどして調査区全体を古代の面にそろえて、同じように空間利用の状況を確認していく予定です。

作業も終盤にきて、今年度で第3層の調査に入ることは厳しくなってきましたが、古代・中世の面でそれぞれ生活空間の利用を確認できたことで、以前に調査されたA・B・C区と合わせて検討できるようになったことなど、大きな成果を上げることが出来たと思います。

(中村 匡成)



帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

(網掛け部がⅢ期の調査区)

コラム2 「一本の骨から…」

すべては一本の骨から始まった。

発掘調査の初日、遺跡近くの川で私達は長さ20cmくらいの大きな骨を見つけた。最初は犬用のえさかなと思ったが、一応持って帰ることにした。発掘調査室に資料収集に来ておられる京都大学大学院生の石丸さんが動物骨に詳しいので尋ねてみた。その骨はイノシシの左大腿骨であるということだ。どうやらぱっと見ただけで左右どちらの骨かということまでわかるようだ。さらに骨はわりと最近のものであるということだった。

何も知らない人間からすればただの一本の骨だが、実はその中には様々な情報が詰まっている。それは動物骨だろうが土器のような人工遺物だろうが変わらない。まだ考古学を学び始めて間もない私達がひとつの遺物から読み取れる情報はわずかなものだが、より多くの遺物に触れ、また考古学に携わる人々と関わり、

数多くの書物を読むことによって少しでも多くの情報を読み取れるように頑張っ
ていこうと思う。

(中川志保美 久野陽香)

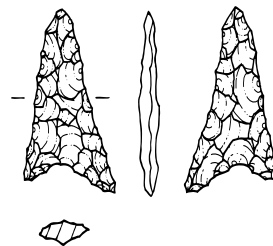
コラム3 「遺物の水洗選別で感じる秋」

私達は発掘作業において大きく二つの場所で遺物を発見します。一つはもちろん発掘現場の土の中から。もう一つは川の中からです。それは発掘で出した土を土のう袋に入れ、遺跡の近くに流れる川でふるいにかけてながら洗い、掘るときに見落とした微細な遺物までを見つけ出す、遺物の水洗選別という作業で得られるものです。水選ではサンダルを履き、川に足と手をつっこんで土を溶かしていきます。土が溶けてふるいの上に残った小石などに土器片や動物骨を見つけたときの喜びはひとしおです。私は現在三年ですが、二年の発掘調査の時、初めて土器がふるいの上に現れた時は本当に嬉しかったことを覚えています。帝釈峡での発掘期間は8月上旬から9月上旬までの約一ヶ月あるのですが、この一ヶ月で体を感じる水の冷たさはかなり変わってきます。8月の頭では川に入ると気持ちよかったのに、お盆過ぎ頃から水が冷たくなってきて、午前中遺物の水洗選別をしているだけで手足が冷えきってしまいます。このような水温の変化から夏の終わり、秋の到来を感じる今日この頃です。

(斉藤礼)

帝釈峡遺跡群の遺物あれこれ

今号では帝釈久代東山岩陰遺跡で出土した遺物を紹介します。帝釈久代東山岩陰遺跡では縄文時代当時の狩猟・採集生活を示す遺物として石鏃が数多く出土しています。石鏃は文字通り石で作られた鏃（やじり）のことで主に小動物などを狩るときに使用されたものと思われます。出土している石鏃のほとんどが安山岩製ですが、たまに黒曜石製のものが出土します。これはほかの帝釈峡遺跡群出土の石器全体においてもあてはまる傾向です。黒曜石製のものは、原石は島根県の隠岐で産出されたものと考えられ、帝釈峡遺跡群が外部の遺跡との交流を持っていたこ



久代東山岩陰遺跡出土の石鏃

とが推測されます。

図からも分かるように、表裏ともに入念に調整が施されています。小さなやじりなどの形を整えていく場合、鹿の角や骨など軟質の押圧具をやじりの縁辺にあてがい、一瞬の加圧によって石の表面を薄く剥ぎ取っていきます。東山で出土した石鏃も同じような方法で作られたのではないかと思われます。こういった念入りの加工や外部からしか手に入らない石材を使っていることから狩猟採集の道具として石鏃が重宝されていたことがうかがえます。

(津田真琴)

人物往来

(8月24日)

神石高原町教育委員会 佐竹秀朗教育長、中山光章さん、横山邦正さん、森山郁夫さん

(8月27日～9月4日)

京都大学人間・環境学大学院生 石丸恵利子さん (D4生)

(9月1日)

庄原市教育委員会 文化・スポーツ振興係 稲垣寿彦さん、稲村秀介さん

東城支所 佐古辰巳係長

参加者名簿 (Ⅲ期 8月27日～9月3日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

” 助教授 竹広文明

” 助教授 野島永

” 大学院生 加藤徹 (D3生)、石貫弘泰・今井千佳子・

塩冶琢磨・順田洋一・須崎瀬里奈・永田千織

(以上M1生)

広島大学文学部学生 新秀文・伊藤祐介・斉藤礼・津田真琴・中

村匡成 (以上3年生)

河戸祥陽・久野陽香・実盛良彦・田中慎一・

辻村哲農・中川志保美・星孝明 (以上2年生)

愛知教育大学 理科教育学研究科理科教育専攻 大学院生 加藤香織さん

(M2生)

” 大学院生 波木基真さん

(M1生)

陣中見舞い (50音順)

愛教大の方 おかし

上倉さん・工藤さん ふりかけ・花火

打田さん おかし・ジュース

岸田先生・文学部事務のご一同 ビール・ジュース

倉本さん おかし・梨

手島さん お酒・おかし・ジュース

西別府先生 ビール・コーヒー

藤井さん メロン・桃

榎林さん・八幡さん ビール・おかし・ジュース

牧野さん トマト・缶詰・コーヒー

明賀さん 野菜・魚

弥生食堂藤井さん 野菜・スイカ

この他、藤井氏御夫妻には宿舎にて交流の機会を設けていただきました。また、地元の皆様には、物心両面で多々ご支援いただきました。最後になりましたがお礼申し上げます。

ありがとうございました。

今年も約一月にわたり発掘調査を行ってきました。それに伴い今年も3号の「いわかげ」を作ってきました。本年も「いわかげ」を読まれて、調査している遺跡を訪問される方も多々いらっしゃるので、作成した私達としてもお役に立っていることを嬉しく思っています。それとともに、「いわかげ」をより広く知っていただき、かつわかりやすい内容にしなければならないと感じました。昨年度以来いまだ改善しながらの部分もありますが、今後とも皆様に読んでいただけるようがんばっていきたいと思います。

ありがとうございました。

(編集 石貫・加藤)